

● 碑は文学への道しるべ ●

—作家を知り、文芸に親しむための作家別文学碑ガイド

日本の文学碑

宮澤 康造・本城 靖 監修

2008年11月刊行

1 近現代の作家たち

A5・430頁 定価(本体8,500円+税) ISBN978-4-8169-2145-2



2 近世の文人たち

A5・380頁 定価(本体8,500円+税) ISBN978-4-8169-2146-9



作家・文人171人の文学碑9,528基

■全国に散在する文学碑とその内容を調べられるガイドです。作家名見出しのもと、碑文、所在地、碑種(歌碑、句碑、詩碑、童謡碑など)、建立年月を掲載。

「1 近現代の作家たち」では、作家 97 名の主要文学碑 4,669 基を、「2 近世の文人たち」では、文人 74 名の主要文学碑 4,859 基を収録。

■作家のプロフィールと参考文献も記載。作家と地域の関わりや、作品の地域性もわかります。「県別索引」付き。

【監修者プロフィール】

宮澤 康造 みやざわ・こうぞう

大正14年(1925)長野県生。東京高等師範学校を経て、昭和23年東京文理科大学(現筑波大学)卒。長野県および東京都立高校教諭、昭和50年東京都立高校校長、昭和60年定年退職、以後、獨協大学、武蔵野女子大などの講師を勤める。日本ペンクラブ会員、日本文学碑研究会主宰、東海文学碑研究会々友。

本城 靖 ほんじょう・やすし

昭和12年(1937)三重県生。昭和35年法政大学卒。日立家電販売(株)中部営業所勤務を経て現在フリー。三重郷土会、東海文学碑研究会、日本文学碑研究会、日本拓本研究会等の会員。

収録予定人物例

「1 近現代の作家たち」

種田山頭火、高浜虚子、正岡子規、若山牧水、野口雨情、与謝野晶子、山口誓子、斎藤茂吉、北原白秋、宮沢賢治、石川啄木、折口信夫(釋道空)、夏目漱石、水原秋桜子、佐佐木信綱、徳富蘇峰、与謝野寛(鉄幹)、萩原井泉水、島崎藤村、井上靖、土井晩翠、佐藤春夫、竹久夢二、長塚節、萩原朔太郎、小泉八雲、樋口一葉、志賀直哉、金子みすゞ、司馬遼太郎 ……など97名

「2 近世の文人たち」

松尾芭蕉、小林一茶、良寛、与謝蕪村、本居宣長、吉田松陰、頼山陽、横井也右、各務支考、榎本其角、加賀千代女、井上井月、河合曾良、広瀬淡窓、上島鬼貫、大田蜀山人、向井去来、十返舎一九、服部嵐雪、西山宗因、石川丈山、井原西鶴、菅江真澄、賀茂真淵、貞心尼、加舎白雄、平賀元義、大島蓼太、吉田松陰、渡辺崋山 ……など74名

2017.2

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名	注	日本の文学碑 1 近現代の作家たち 定価(本体8,500円+税) ISBN978-4-8169-2145-2	冊
		日本の文学碑 2 近世の文人たち 定価(本体8,500円+税) ISBN978-4-8169-2146-9	冊
	文	■お名前	

ハキワラ

大渡橋は前橋の北部、利根川の上流に架したり。…(略)
群馬県前橋市総社町総社大渡橋
詞碑 昭五八年二月

* * *

萩原朔太郎 (はぎわら・さくたろう)
詩人
(明治一九年二月一日、昭和一七年五月二日)
出身地 群馬県東群馬郡北曲輪町(前橋市千代田町)
父親は開業医、母は武家の出身で、群馬県前橋の裕福な家庭に生まれる。前橋中時代から短歌に励み、回覧雑誌や『新声』『文庫』『明星』などの文芸雑誌に投稿。旧制五高、六高、慶応義塾大学などに学ぶが、ことごとく中退。漂泊生活を経て、大正二年前橋に帰郷。この頃、西洋音楽に興味を惹かれてマンドリンやギターを習い、マンドリン・オーケストラを設立して運営・指揮・編曲・作曲などに取り組んだ。同年北原白秋主宰の『朱楽』を通じて生涯の友となる室生犀星と知り合い、三年山村暮鳥と三人で入魚詩社を創設して『卓上噴水』を、五年には犀星と『感懐』を創刊。六年処女詩集『月に吠える』を刊行して詩壇の注目を集め、十二年第『詩集』『青猫』を発表し、詩人としての地位を確立。十四年一家で上京、十五年から『文士村』と呼ばれた馬込に居住したが、昭和四年妻が男と出走したため離婚し、二人の娘を連れて郷里の前橋に戻った。間もなく父を失い、家督を相続。八年個人雑誌『生理』を創刊。十年には堀辰雄の創刊した詩誌『四季』の中心的な同人に迎えられ三好達治、丸山薫、立原道造、神保光太郎、阪本悦郎ら若い詩人たちからの尊敬を集めた。晩年は『日本回帰』の色彩を強め、日本浪漫派などに属した。十六年夏頃より体調を崩し、十七年五五歳で没した。
定型詩・非定型詩、文語体・口語体という日本の近代詩の過渡期において、日常的な口語を用いて微妙な感覚や鋭敏な意識を表現した詩人として高い評価を得た。
他の詩集に『純情小曲集』『水島』『宿命』があり、『評論』『随筆』に『詩の原理』『純正詩論』『邪念の詩人と謝無村』『日本への回帰』『帰郷者』、警句集『新しき欲情』『虚安の正義』『絶望の逃走』などもある。

作家名見出し

肩書
生没年、出身地
経歴など

ミヤサワ

宮沢賢治 (みやざわ・けんじ)
詩人・童話作家
(明治一九年八月二七日、昭和八年九月二日)
出身地 岩手県神岡郡花巻町(花巻市豊沢町)

花巻の質古着商の長男として生まれ、浄土真宗の信仰の中に育つ。幼少から鉱物採集に熱中。盛岡高等農林学校在学中法華経を読み、熱心な日蓮宗信者となる。

船長は一人の手下を従へて
手を腰にあて
たうたうたうたう尖ったくらいラッパを吹く…(略)
(『発動機船・第二』より)
岩手県下閉伊郡田野畑村二陸鉄道北リアス線カルボナード鳥越駅前広場
詩碑 平成九年三月

石油の青いけむりとながれる火花のしたで
な月あかり水をのぞみ…(略)
(『二』より)
三陸鉄道北リアス線カルボナード田野畑駅前

うち日さす宮道を人は満ち行けど
我が思ふ君はただひとりのみ
群馬県前橋市千代田町五丁目広瀬川諏訪橋下流(広瀬川河畔緑地)
歌碑 昭六二年十月

○空に光つた山脈それに白く雪風
このごろは道も悪く…(略)
(『才川町』十二月下旬より)
群馬県前橋市若宮町三丁目才川緑地
詩碑 昭和六年四月

ところもしらぬ山里に
さも白く咲きてゐたる
おだまきの花
群馬県安中市磯部町赤城神社文学の散歩道
詩碑

野に新しき停車場は建てられたり
便所の扉風に吹かれ…(略)
(『新前橋駅』より)
群馬県前橋市新前橋町新前橋駅前
詩碑 昭和六年二月

わが故郷に帰れる日
汽車は烈風の中を突き行けり
ひとり車窓に目醒むれば…(略)
(『詩集』『水島』の『帰郷』冒頭)
群馬県前橋市敷島町敷島公園
詩碑 昭和二十年五月

(参考文献)
『室生犀星・萩原朔太郎の文学碑』 早稲田大学文学碑と拓本の会 一九七三

参考文献

碑文
所在地、碑種、建立年月

好評既刊

●歌碑、句碑、詩碑、民謡碑など延べ21,000基、作家数4,600人を収録

新訂増補 全国文学碑総覧 宮澤康造、本城靖 共編

A5・1,500頁 定価(本体29,000円+税) ISBN4-8169-1995-3 2006.12刊

